

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	85人	国語B	85人
② 算数A	85人	算数B	85人
③ 理科	85人		

5 留意事項

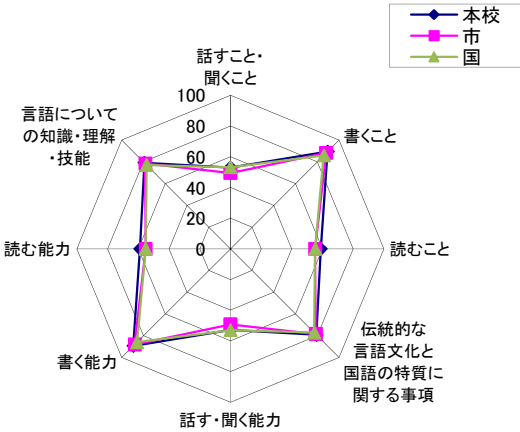
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

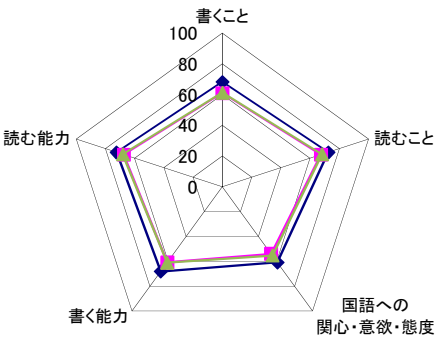
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	52.9	49.3	53.0
	書くこと	89.4	88.2	86.0
	読むこと	58.8	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.2	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	52.9	49.3	53.0
	書く能力	89.4	88.2	86.0
	読む能力	58.8	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	79.2	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	68.2	60.9	61.1
	読むこと	72.4	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	60.9	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	68.2	60.9	61.1
	読む能力	72.4	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は大切だと思いますか。」と「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の質問では、肯定的な回答している児童が95%を越えており、大切な教科と認識して前向きに取り組んでいることが分かる。
○国語の授業での学習については、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、聞いたりしている」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」など、自分の考えを進んで伝えたり、工夫して伝えたりして積極的に取り組んでいることが分かる。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

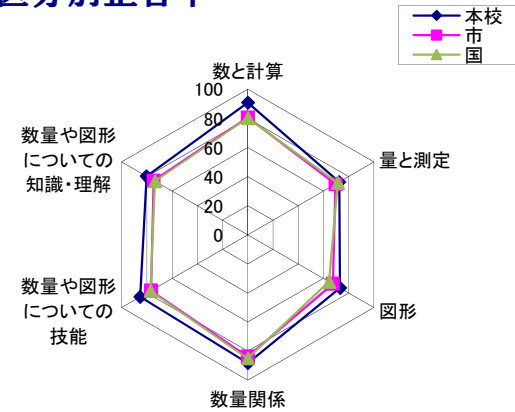
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話の内容に対する聞き方の工夫として適切なものを選択して回答する設問の平均解答率は、全国平均とほぼ同程度である。提案の内容と自分たちの様子とを重ね合わせながら聞く工夫を誤って解答した児童が16.5%と多く、自分たちの生活と関連付けながら聞く態度が十分身に付いていない。	・話し合いの中で、自分の考えと比べながら聞く態度を身に付けさせる。聞き取った内容と自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞かせる指導を行う。また、相手が伝えたいことは何かを、より明確に理解するために、自分の生活や経験と関連付けながら聞かせるようにさせる。
書くこと	○Bにおける書くことについての設問に対しては、5～13ポイント全国平均を上回っている。特に適切に新聞の割り付けができるかを問う設問では、全国平均を13ポイント上回っており、目的に応じた記事の割り付けがよく理解されている。 ●インタビューの内容を、条件に応じてまとめる設問の正答率が34.1%と低い。内容とともに話して様子を意識して書くことができていない。	・新聞を書く活動では、取材した内容から、目的や意図に応じて記事を選択し、読み手に伝えたいことを明確にしながら記事を書くことを指導する。特に、聞いた内容や分かったことだけでなく、取材した相手から受けた印象や自分が感じたことや考えたことも文に加えると、より伝えたいことがはっきりとすることを理解させる。
読むこと	○新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える設問では、全国平均を7～8ポイント上回っており、筆者の意図を想定しながら文章全体の構成や引用されている言葉をよく理解している。 ●Bの登場人物の行動から場面の移り変わりを捉える設問では、正答率が57.6%で全国平均よりも3ポイント低い。登場人物の行動の変化が分かる文中の表現を見つけることに課題がみられる。	・物語文の読み取りでは、場面の移り変わりや物語の構成を捉えるために、文中の時間や場所の変化を表す言葉や、場面についての描写を見つけさせる。文中の表現を手がかりにしながら、物語の構成など全体を捉えさせる学習を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きについての設問は、いずれも全国平均を上回っている。特に読みは95%を越えており、よく習得している。 ●文の主語として適切なものを選択する設問では、正答率が50%を切っており、主語・述語の関係を捉えながら文を読むことに課題がある。	・文を書く際には、主語と述語をしっかりと意識して書かせるようにする。分かりやすい文を書くためには、主語・述語の照応関係が必要であることを理解させる。また、文中から主語や述語を抜き出す活動を行い、文の中での役割を理解させる。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

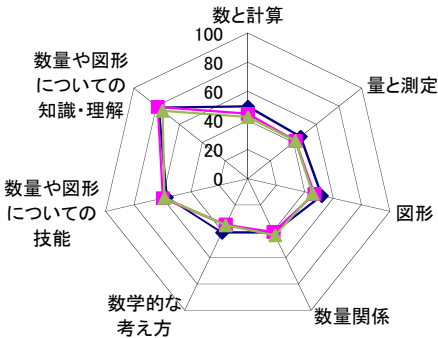
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	90.8	80.7	80.1
	量と測定	72.5	69.6	71.3
	図形	73.2	67.4	64.5
	数量関係	88.2	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	85.5	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	80.4	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.7	44.6	42.4
	量と測定	46.3	41.8	41.7
	図形	52.1	46.8	45.6
	数量関係	40.8	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	40.9	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	57.1	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	78.2	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○「算数の勉強は大切だと思いますか」という質問に対して肯定的に回答する児童は98.9%で、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」の質問では肯定率が96.5%と非常に高い。
○授業への取り組みに対してもよりよい方法を考え解き方や考え方をわかるようにノートに書いたり、公式やきまりの根拠まで理解しようとしたりと、算数に対する意欲や必要感を持って前向きに取り組んでいる児童が多い。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

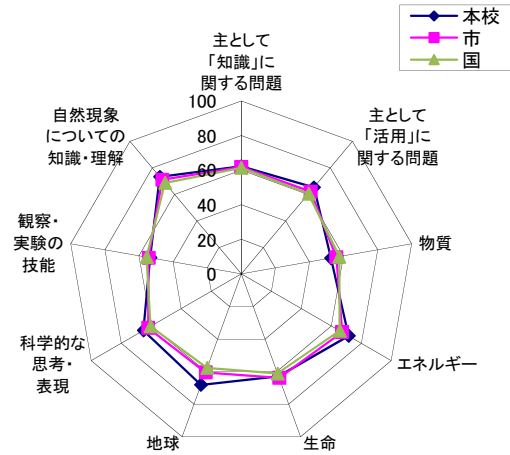
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○どの設問においても全国平均より10ポイント以上正答率が高く、整数・小数・分数の計算を定着することができている。特に小数の加法減法では15ポイント以上上回り、成果が見られる。 ●四捨五入しておよその数にして計算することにおける正答率は、全国平均とほとんど差が見られず、この領域においては課題であると考えられる。	・日常生活の場面と結び付け、四捨五入による処理の方法で実際に近い数を求めて結果の見通しをもつことが有効であることや、その処理の良さが実感できるようにする。形式的な処理だけでなく、四捨五入することによって実際の数に近い数がつくられることを、図や数直線等を用いて理解できるようにさせる。
量と測定	○示された部分の面積を求める問題では全国平均より13.4ポイント高く、算数の学習から見出した考えを、条件を変えた場面に活用して発展的に考察できている。 ●Aではすべての設問で全国平均を上回っているが、他の領域と比べると正答率が低くやや苦手な傾向が見られる。Bにおける単位量あたりの大きさをを用いて買い物の仕方を選択する設問では全国平均より3.6ポイント低く、課題が見られる。	・日常生活の事象の解決に、割合や単位量あたりの大きさを活用して、合理的かつ適切に判断する学習を充実する。日常生活においては瞬時に判断し、答えを導くことが求められる場合がある。単位量あたりの大きさをを用いて解決する買い物の場面を設定し、買い方を選択しその求め方を検討するなど、より合理的で能率的な求め方を考える活動を行う。
図形	○Aではどの設問でも全国平均よりも7ポイント以上高く、図形に関する基本的な知識がよく理解できている。 ●示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形の性質を記述する問題においては、全国平均よりも7.7ポイント低く、また無回答の割合も1番高いなど、日常の事象と図形を関連付けて考えることに課題が見られる。	・図形の性質を学習する際には、身のまわりのものや地図から図形を見出したり、見出した図形のどのような性質を用いれば問題が解決できるか見通しを立てたりする活動を行う。図形を構成する辺の関係や長さ、角に注目し、示された情報の中から必要な情報を取り出して考えられるようにさせる。
数量関係	○グラフに示されている事項を読み取る問題では全国平均より6.4ポイント高い。 ●示された割引後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述する問題では、全国平均より3.6ポイント低く、比較量と割合から基準量を求めることに課題が見られる。	・基準量と比較量の大小関係を基に、二つの数量を的確にとらえることができるよう、基準量・比較量・割合の関係を数直線で示すなど数量の関係を表現する活動を取り入れる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	62.2	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	65.2	62.2	60.5
区分等	物質	52.6	55.7	57.4
	エネルギー	71.6	67.2	65.6
	生命	62.9	63.8	61.2
	地球	68.2	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	65.2	62.2	60.5
	観察・実験の技能	53.4	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	73.2	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「理科の勉強は大切だと思いますか」「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問では、肯定的な回答をしている児童が90%を超えており、大切な教科と認識して、意欲的に学習に取り組み、内容を理解していることが伺える。
○「理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」の質問では肯定的な回答が90.6%と、全国平均を15ポイント上回り、自分たちの予想をもとに比較実験に取り組んだり、モデル実験を考えたりしていることが伺える。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○物の溶け方の規則性についての問題の正答率が、全国平均を上回っている。 ●水の温まり方やメスシリンダーの名称についての問題に課題がある。	・児童が主体的に問題を解決できるようにするため、自分の予想と実験結果を照らし合わせ、より妥当な考えに改善できるように、実験方法を明確にした上で実験を計画するように指導を行う。 ・目的に応じて必要な器具を選択し準備する活動を通して、器具と名称、使う目的を一致させ、器具の名称を正しく理解させる。
エネルギー	○すべての問題の正答率が、全国平均を上回っている。特に、振り子時計の調整の仕方を調べるための実験の条件を制御して構想する問題の正答率が高かった。	・実験結果のまとめで終わることなく、生活場面に当てはめたり、生活の中で使われている道具などの仕組みに着目したりして考える学習を行う。
生命	○顕微鏡の名称の理解や適切な操作方法や植物の適した栽培場所の問題の正答率が、全国平均を上回っている。 ●メダカの雌雄の見分け方や生物の成長に必要な養分のとり方についての問題に課題がある。	・身の回りでみられる自然や日常生活の事物・現象をこれまでに学習した内容を適用して考えたり、話し合ったりする活動を行い、調べた生物の成長の様子についても差異点や共通点を見い出し分析することができるよう指導を行う。
地球	○すべての問題の正答率が、全国平均を上回っている。特に、打ち水の効果についての問題の正答率が92.9%と高い。	・これからも実験で得られた結果だけで単に分析するだけでなく、自然の事物・現象を関係付けながら考察したり、言葉でまとめて説明したりするなどの学習を行う。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○基本的な生活習慣や家庭でのコミュニケーション等、地域との関わり、社会に対する興味・関心についての質問の肯定的回答率は、国や県に比べて高い傾向が見られた。

○自尊意識や規範意識に関する質問の肯定的回答率も、国や県に比べて高い傾向が見られた。特に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」といった質問での肯定的回答率が特に高かった。

○将来に関する意識についての質問の肯定的回答率は、国や県に比べて高かった。

○学習状況についての質問の肯定的回答率は、国や県に比べて高い傾向が見られた。

○学校生活等についての質問の肯定的回答率は、国や県に比べて高かった。

●学習時間についての質問では、一日当たり1時間以上学習する児童の割合は国や県よりも高いが、2時間以上学習する児童の割合は国や県よりも低い傾向が見られた。これからも学校教育スタンダードの方針や、地域学校園の「家庭学習のススメ」などを活用し、家庭学習の定着を図っていきたい。